

Voyage of DISCOVERY ～大学院生、海外調査の旅～



なつやすみはいかがでしたか？

旅行に行かれた方も多いのではないのでしょうか。

観光もよいですが、せっかくの旅。

学びを深める、実りあるものにもしたいですね。

今回の特集はお二人の大学院生の方に海外調査のこと、
そしてこれからの研究活動について伺いました。

大学院への進学を考えておられる方、
論文の資料を集めておられる方にも必見です！



特集

Voyage of DISCOVERY

～大学院生、海外調査の旅～

特集は裏面へ★

京都大学 人間・環境学研究科総合人間学部図書館

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

Tel：075 (753) 6524, 6525

Fax：075 (753) 6896

Email：eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

HP：http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/heslib/

Twitter：@jinkansoujinlib



人環・総人図書館講習会 一步先行くLibrary使いこなし術！

15分で
使いたくなる！

【日時】

10月16日(水)、17日(木)

両日とも ①12:35-12:50

②16:30-16:45

【場所】

人環・総人図書館 カウンター横

【予約優先】 当日参加も歓迎！

＜ご予約はメールで＞

件名を「WOS講習会」とし、

氏名・所属・回生・学生証番号、

希望する日にち、回を記載して

eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

まで送信してください。



Web of Science

ご存知ですか？先行研究を調べるときにとっても便利な論文データベース Web of Science。自然科学・社会科学・人文学の幅広い学術情報を網羅した便利な文献データベースです。なにがどう便利なの？15分でご紹介します。

参加者には記念品プレゼント！



北部地区（農学部や理学部）図書室の本もお取り寄せ可能に！

北部地区（農学部や理学部）の図書室は、遠くに行くのが大変…今からだと閉館してしまう…そんなあなたに朗報です！

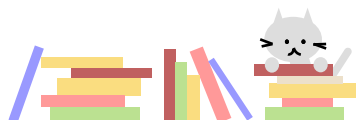
学内の離れた図書館から図書を取り寄せる「学内デリバリーサービス」の範囲を10月から拡張いたします。これまで人環・総人図書館では異なるキャンパスの図書館・室からのみ、取り寄せが可能でしたが、吉田キャンパス北部地区の農学系図書室および理学系図書室の図書も取り寄せが可能になりました。（到着までには2-3日程度かかります。）是非ご利用ください！

利用対象者：

当館ご所属（人環・総人、高等教育研究開発推進センター、国際高等教育院、iGeMS、総合生存学館）の方



移動が困難な障がいをお持ちの利用者の方は、距離に関わらずどの学内図書館からでも取り寄せることができます。ご希望の方はご相談ください。





Follow me ! “@jinkansoujinlib”



としょかんアラカルト

聞きたいときに、お好きなものを。

としょかんアラカルト

メニューから気に入った料理を選ぶ。そんな気軽な感じで、

図書館に聞きたいことをリクエストしてみませんか？

M E N U

図書館利用案内 15～20分
KULINE、MyKULINEの使い方 15～30分
文献検索 (CiNii、Web of Science) 15～30分
文献管理ソフト (RefWorks) 60～90分

その他 お気軽にご相談くださいませ！



■お申込みの流れ■

- ① 図書館へメールするか、もしくは直接カウンターへお越しください
- ② 希望するコンテンツ、参加人数、日時、場所を打ち合わせします
- ★ おひとりからお申込みいただけます
- ★ グループ、授業、ゼミなど歓迎！

③ 調整後、詳細をお知らせします

④ 当日、会場へお越しください！

詳しくは配布チラシ・HPをご参照ください。

Tel 075-753-6525,6524

Mail eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

EDDSで学内の文献取り寄せがスマートに（試行サービス開始）

EDDS(イーディーディーエス)とは？

学内の離れたキャンパスにある文献(論文など)を学内の研究室やOSLのパソコンなどで読むことができますようになります！



- ・公費(運営費のみ)の場合のみ利用可能
- ・学内ネットワーク環境下のパソコンなどでのみ利用可能
- ・著作権法を厳守の上、ご利用ください。(第三者への印刷物やPDFの再配布厳禁)

開館日程表

10月

9日(水) 夏季特別貸出返却期限日

16日(水)~17日(木)
Web of Science 講習会

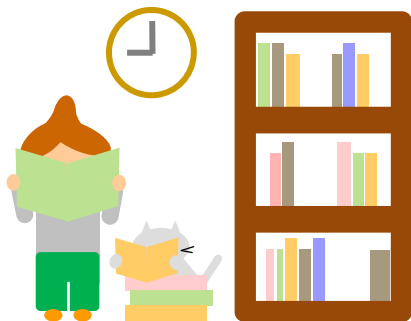
Web of Science 講習会開催!

10/16(水)-10/17(木)

①12:35-12:50

②16:30-16:45

各回15分、当日参加OK!



「環on(わおん)」(人環棟1F)

開室: 平日9:00-17:00

本館の定例休館日も開室

休室: 土日祝日ほか

(本館の休館日と同じ)

9:00-20:00

10:00-15:00

休館 (日・祝日、28日定例休館日)

10

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

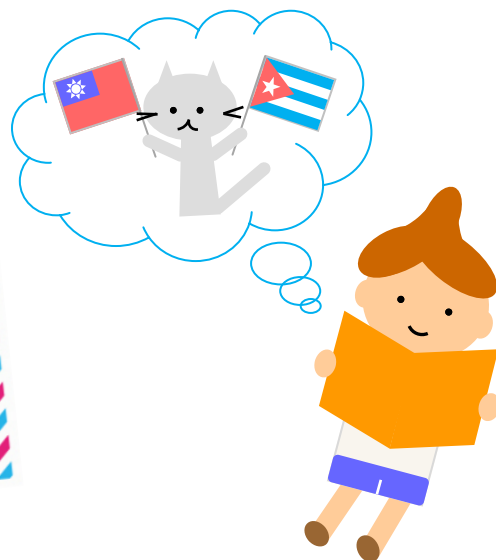
11

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12

12月29日-1月6日: 冬季休館

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				



まず、人間・環境学研究科博士課程2回生のI.Aさん(以下Aさん)に2013年8月に行ったインタビューをまとめました。Aさんは博士課程1回生の終わり、2013年の2月から3月にかけて10日間、台湾で海外調査を行いました。彼の研究テーマは「20世紀初頭の東アジアの国際関係史」。歴史の研究には、一次史料にあたるのが重要だとのこと。直接目で見たいと、かねてから海外へ行くことを考えていたそうです。

小さい頃から歴史が好きで、好きな歴史を研究したい、またそれが現代に繋がる社会問題だからこそ社会に還元したい！研究への情熱が、海外へと足を運ばせたのではないのでしょうか。

—海外調査に行くきっかけとなったことはありますか？

A: 研究を始めた当初から、まずは一次史料、つまりその当時の生の史料(報告書や日記、手紙など)をこの目で見なくてはと考えていました。そこへ文科省からの助成金が研究室にもらえるという話があったので「じゃあ、今行こう」と。

—調査に行かれた時の、一日のタイムスケジュールを教えてください。

A: 朝8時から夕方4時-5時までは公文書館で調査していました。大体で良いので「この時代の、この人物の史料がみたい」という感じ。公文書館の史料は大部分が複写不可の資料でした。デジカメ撮影もできないため、手書きで書き写し

かないことが大変でした。5時以降は夜の9時くらいまで国家図書館で文献調査をしていました。

公文書館、国家図書館とも予約は不要でした。図書館の場合は、貸出はできませんが、パスポートを提示すれば、利用カードが発行され、自由に閲覧、複写もできました。

—公文書館、国家図書館、滞在先の3点移動を毎日されていたんですね。

A: はい。調査中の滞在先はホテルだったのですが、駅に近く便利な所を自分で探しました。

—台湾に行って驚いたことは？

A: 台湾の人が皆親切にしてくれたこと。台北の都会は活気があり、刺激に満ち満ちていること。あとはとにかく「安い」ということです。食事代も、移動代も、いろいろと！電車代は初乗りが50円くらいでした。食事についても、安いのにとても美味しくてびっくりしました。

—海外調査を終えてどうでしたか？

A: 日本にいたら知らないことを知ることができたと思います。現地の人と触れ合うことも魅力の一つ。テレビで見る「外国」ではなく生の情報が肌から入ってくるのを感じました。

それから、これは歴史をやっている人向けのメッセージになってしまうかもしれませんが…、一次史料に触れることができ

ることの大切さを実感しました。自分が予期していなかった発見があり、そこからいろんな着想が持てます。

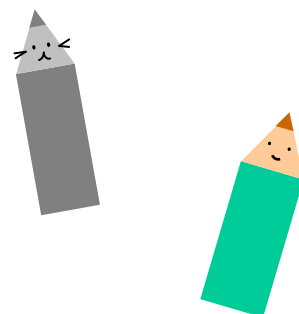
—一事前にこうしておけばよかったということはありませんか？

A: 一次史料に当たった時に、読めない文章がありました。中国語の手書きの文章で、くせのある文字だったのですが、自分の読解力不足が原因なので、渡航前にもうちょっと勉強しておくべきでした。

—最後に、アドバイスと感想を。

A: アドバイスは一つだけです。研究は一人ではできません。先生や先輩、友人など、周囲に(そして社会全体に)支えられていることを心に留めてください。それから、これが個人的に最も伝えたいことですが、研究することの楽しさと意義を改めて実感しています。一生懸命何かをしていて、それが社会のためになるなら、これほどラッキーなことはないですよ。

—ありがとうございました。



次は、人間・環境学研究科博士課程のK.Sさん(以下Kさん)に2013年3月(当時博士課程2回生)に行ったインタビューです。Kさんは修士課程在籍中に予備調査と本調査でアメリカへ2度渡り、また博士課程1回生の夏休みに予備調査でキューバに滞在しました。今回はこの2つの海外調査について伺いました。

—初めに、研究テーマを教えてください。

K: 修論のテーマは「黒人宗教音楽ペンテコステ派(プロテスタント系)の礼拝場面における音楽的コミュニケーション研究」です。フィールドノートをもとに調査報告をしました。

—最初に行かれた予備調査とは？

K: 海外調査というのは、予備調査と本調査というのがあって、修士課程の時は本調査の1年前に、春休みを利用して、語学学校通学を兼ねた予備調査のために渡米しました。予備調査で特に意識してやったのは、本調査で何をどのように研究するのかを具体的にイメージできるようにすることです。まずは一般の観光客のために組まれているようなツアーなどに参加して、協会の礼拝でゴスペルを聴いたり、アポロ・シアター(註1)やライブハウスに行ったり、リアルタイムのブラックミュージックに触れたり、街をぶらぶら歩いてハーレム(註2)の文化を眺めました。そして調査対象になるようないくつかの教会にあたりをつけ、本調査のために出来る限りコネクションを作っておきます。

—本調査は修士課程2回生の夏休みだったとのことですが、論文執筆との兼ね合いが大変だったのでは？

K: 修士2回の4月から本調査に出かける8月までは、授業を受ける傍ら、指導教官と相談しながら論文のテーマと構想を固め、先行研究をもとに黒人教会やハーレムの歴史をまとめ、第1章を完成させました。あと、渡米してすぐに調査に入れるように、現地にいる友人と住居の相談をし、教会の人と連絡を済ませておきました。

—一段取り良く、ということですね。そしていよいよ本調査ですが。

K: はい。本調査では、フィールドワークをしました。同じ教会に毎週行き、儀礼がどのようなものなのかを見る目的で、朝夕に行われる礼拝に出ました。野外礼拝にも行きました。教会については、対象を一つに絞り、比較として2,3別の教会も見ました。夜はジャズ喫茶に行ったりもしました。黒人音楽やリズム感を知りたかったというもありますが、大のジャズファンの私は、夜に時間を見つけては黒人音楽の醍醐味を味わうべくライブハウスへも通いました。趣味と実益を兼ねていた訳です(笑)。2か月間アメリカに滞在し、帰国後は1月初旬に論文を提出しなければいけなかったので、本調査で得たフィールドノートを使い、論文の残りの部分を書きました。

—一次にキューバでの海外調査について伺います。まずは博士課程の研究テーマを教えてください。

K: 「サンテリア(キューバの黒人宗教)の儀礼における音楽的コミュニケーション」です。

—キューバはどんな国でしたか？

K: キューバは二重通貨制度を採用しています。ビザで入る私は外国人観光客が用いるキューバドルを使うので物価は安くないと感じました。地元の店なら私達(外国人)もキューバペソを使うことも可能です。治安は中南米の中では良い方なので命の危険は少ないですが、スリが多いので注意が必要です。交通機関が未発達なので、現地の人も観光客もタクシーを使うことが多いです。

—予備調査ではどのようなことを？

K: 1日目は家の周りを散策しました。それから観光地と教会巡り、ダンスパーティ、ライブハウス、定期的に行っているカーニバルや踊りも見に行きました。アメリカの時と同じですね。それから今回は太鼓(バタ)を習いに行きました。泊まっている民宿に帰宅したらフィールドノートを書きました。資料として有益かどうかに関わらず体験したこと、そこから感じたこと、現地で得た情報など、できるだけあますことなく書くことを心がけていました。

—現在はキューバに本調査に行かれる準備中とのこと。これから海外調査へ行く方に、何かアドバイスを。

K: 日本食を持っていくと節約になります(インスタントごはん、乾物系、味噌汁など)。アメリカの場合は物価(食品)が高いため外食ばかりだとしんどいです。それから危機管理は大事！自分の身は自分で守れるようにしておいてください(夜中の地下鉄には乗らないとか)。そのためにも観光局や現地の日本人から国の情勢を仕入れることは大事だと思います。あと、渡航先での事故や体調不良はつきものなので保険には必ず加入してください！

—最後に、海外調査を通じての感想を。

「ラポール(註3)を築く」という言葉がありますが、人に頼ること、人脈を作ること、得られるものがたくさんあります。また、海外に行くことで、今まで「知らない」と気が付いていなかったことがたくさん存在することに気が付きます。行かないとわからない内部事情など、**本には載っていないことが現地に行くとかたくさん見つかります**。それらを吸収するためには、素朴に一から感じる事が大事だと思います。「なんでこんなふうになってるのかな？」という気持ちと、**今自分の置かれている状況を「受容すること」**から何かが始まると思います。

—ありがとうございました。

註1: ポピュラー音楽においてアメリカ合衆国で最も著名なクラブの一つ。ニューヨーク市内の黒人居住地区「ハーレム」にある。

註2: マンハッタン区北部に位置するアフリカ系アメリカ人の文化の中心地。

註3: 意思の疎通性、親密な関係。相互の信頼関係のこと。

